

技術条件書

公募する新技術

「都立府中高等学校改築工事におけるコンクリート面の外壁仕上げに用いる耐候性塗材に関する技術」

改築予定の高等学校校舎棟の外壁の塗材として、これまで都有建築物に一般的に採用されてきた仕様と比較してより優れた耐久性能を有するコンクリート面の外壁仕上げに用いる耐候性塗材(複層塗材)に関する技術を公募する(複層塗材のうち可とう形と防水形は除く。)

なお、対象範囲は、現場打ちコンクリート外壁塗装面約4,000㎡とするが、対象施設は今後設計を行うことから、建物配置や数量等は想定である。

公募で求める技術条件を以下に示す。

A 性能基準

- ア 耐候性に優れたものであること(JIS A 6909の耐候性試験A法・B法の結果を提出する。)
 - イ 付着強さに優れたものであること(JIS A 6909の付着強さ試験の結果を提出する。)
 - ウ 耐温度変化に優れたものであること(JIS A 6909の温冷繰返し試験の結果を提出する。)
 - エ 防カビ性に優れたものであること(JIS Z 2911のかび抵抗性試験の結果を提出する。)
- オ その他、性能を高める技術や提案がある場合は記載する。根拠資料があり、優れたものであれば、加点する。

B 機能性

- カ 耐汚染性に優れたものであること(具体的に記載する。また、自社試験または第三者評価等がある場合は提出する。)
 - キ 低VOC性に優れたものであること(塗材ごと(下塗り、主材塗り、上塗り)のVOC含有率が30%未満であることを条件とする。VOC含有量(重量比)を記載する。)
- ク その他、改修の容易性など機能性を高める工夫や特筆事項(第三者評価等)がある場合は、記載する。根拠資料があり、優れたものであれば、加点する。

C 先進性

- ケ 特許等の取得あるいは申請の状況、技術論文の公表、受賞履歴、業界紙や新聞など紙面上の技術紹介により先進性が確認できること。ただし、耐候性塗材の耐候性に資する特許等の技術に限定する。

D 経済性

- コ イニシャルコストに優れたものであること。
 - サ 65年のライフサイクルコスト(イニシャルコスト+ランニングコスト)に優れたものであること。
- また、更新年数の根拠資料として、各種試験等の結果を提出する。

※ コストの算出にあたっては複層塗材に関するもののみ算出する(足場等の仮設は含まない。)

※ 税別で材工共の平米単価(円/㎡)とする。

※ コストの算定は市場における取引による正確な価格とする。

- ※ 物価や為替レートの変動は考慮しなくてよい。
- ※ コストの選定にあたっては、主材の仕上げの形状は凸部処理とする。
- ※ イニシャルコストには、躯体補修費や下地調整費を含めない。
- ※ ランニングコストには、修繕費・改修費を含める（修繕・改修時の下地処理内容については提案に含める、躯体補修費は含めない。また、内訳は一式計上せず内容がわかるように明示する。）。

E 施工性

シ 施工実績があることを条件とする（提案する複層塗材（下塗り、主材塗り、上塗り）と同一仕様のものの施工実績について記載する。仕上げの形状は問わない。）。

ス その他、施工品質の均一化や工程の短縮等、施工性を高める工夫や特筆すべき事項がある場合は記載すること。根拠資料があり、優れたものであれば、加点する。

なお、Bのキ及びEのシについては、条件を満たさない場合は他の審査を行わない。

以上